令和４年７月号

ノア Smile

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野１１１２-１
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp

～目次～

●病院短信　斉藤　宏美
●日常の一コマ　大城　恵理
●いきいき看護・介護　鈴木　理恵
●医事課だより　西下　紀子
●ちゃぶ台返し大会　デイルームにて
●芋掘り　農園にて
●スタッフ紹介　麻生　静果

７月の予定

◇誕生日会
１病棟　７月　５日（火）
２病棟　７月　４日（月）
３病棟　７月　６日（水）
各病棟デイルーム　１４：００～

１病棟 ちゃぶ台返し大会

日頃のストレスぶっ飛ばせ！

一度はやってみたかった！誰もが夢見たちゃぶ台返し
日頃のストレスや溜まりに溜まったうっぷんを　この一瞬に！

見事な放物線を描き潔くも無残に飛び散る皿や食材に、会場は爆笑のるつぼ！　職員もやりたそうでしたが…

芋掘り

一年中院庭が綺麗に手入れされているのは
営繕担当職員のお陰。感謝です！

病院短信

『食事を美味しく食べるために』

1病棟　看護師長　斉藤　宏美

盛夏の候、海開き山開きの便りが各地から届く季節となりました。この時期は「暑いですね」の言葉が毎日の挨拶になりますね。暑い中でのマスク着用は、熱中症に十分気を付けて頂きたいと思います。全国的に新型コロナウイルスの感染者は減少しつつありますが、まだまだマスクは必要な状況ですから。

さて、当院では「食べること」に力を入れていること、皆さんご存じですか。入院当初に全く食事を摂らなかった患者さんが、食事形態を変更したり、食べるタイミングを患者さんに合わせたり、時間をかけて介助したり、食事中の姿勢を保持できるよう工夫したりすることで、少しずつ食べられるようになります（もちろん個人差はあります）。また、食事を美味しく食べるためには「お口の中のケア」が重要になってきます。

あるデータによると、40歳以上の5人に4人が歯周病の疑いがあると言われています。歯周病はある程度進行するまで症状が現れないため、自分では気付かないことが多いそうです。歯周病が進行すると歯がしみるなどの問題が起こり、食事を美味しく食べることができなくなります。また、口臭がひどくなりコミュニケーションにも影響が出てきます。さらに、歯ぐきの中でできた炎症性物質が血液を介してインスリンの働きを阻害するため、糖尿病を併発するとも言われています。

以前、ある冊子に「転倒と歯の関係」についての興味深いデータが載っていました。それは、歯が少なくなっている人と多く残っている人の転倒リスクを比べたものです。自分の歯が19本以下（義歯は不使用）の人は、20本以上ある人に比べて転倒のリスクが2.5倍以上になるのだそうです。まさか転倒と歯が関係しているとは思ってもいなかったので、とてもびっくりしました。

当院の患者さんの中には、認知症のため上手に歯ブラシが出来ない方もいます。大切な歯の機能を保つために、食事の後は十分な歯ブラシを行い、口腔内の清潔を保っていきたいと思います。

また、普段のブラッシングで取りきれない歯石等は、毎週木曜日に来る訪問歯科診療の際に実施して頂こうと思います。いつまでも食事を美味しく食べてもらうために。

医事課 だより

医事課　西下　紀子

もう少しで暑い夏の到来ですね。お祭りが大好きな私にとって、今年の夏は風物詩ともいえるお祭りや花火などのイベント行事が少しでも復活してくれることを願っている今日この頃です…

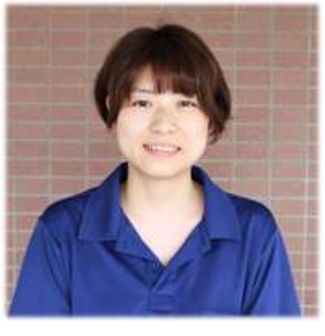
現在ご家族のご面会は１日に数組のご予約制、少人数、短時間でお願いしています。ご面会が再開してからしばらく経ちますが、以前のように制限なしでのご面会は、もう少し先になってしまうのかな？と感じています。引き続きご家族の皆さまには、ご理解ご協力の程宜しくお願い致します。

又、７月末で　国民健康保険・後期高齢者医療証等の保険証、限度額認定証の有効期限が切れる方がいらっしゃいます。ご提示がまだお済みでない場合は、なるべく早めにご提示いただけますようお願いします。わからない事がございましたらお声をかけてください。お待ちしております。

☆お知らせ☆

４回目の新型コロナワクチン接種が始まります。予診票と接種券が届きましたら、お手数ですがご郵送又はご持参いただけますようお願いいたします。（※予診票の署名欄にご署名と続柄のご記入もお願いいたします）

スタッフ紹介



３病棟　看護師

麻生（あそう）　静果（しずか）

星座：みずがめ座

血液型：Ｏ型

好きな食べ物：ごんじり（寒干大根のスナック）

4/1より入職して、３ヶ月が経ちます。昔からお年寄りと関わることが好きで、毎日楽しくお仕事させて頂いています。趣味はドライブと和太鼓とマウンテンバイクです。今はコロナでなかなかできないですが、早く終息することを願っています。

日常の一コマ

今月は１病棟の昭さん（９４歳）の一コマです。昭さんは長野県の松本市に生まれ、大学を卒業後、大手証券会社に就職。その後、２５歳の時に婿養子（奥さまの実家の家業を継ぐ為）に入る形で結婚。３人のお子さんに恵まれたそうです。そして５７歳まで社長業（医療機器の販売やベビーカーやベッドの製造販売など）に専念、その後は息子さんに社長を譲り、会長職として８０歳まで頑張ったそうです。会社を引退してからは自宅の敷地内にマンションを建てて、奥さまとの二人暮らしを始めましたが、その頃から少しずつ認知症の症状（仕事に行く、学校に行く、田舎に帰る、などの話を何度も繰り返す）が出始めたようです。そして８８歳を迎えた頃にはさらにその症状は進み、物忘れが増え、テレビのリモコン操作が出来なくなったり、お部屋の電源コードを抜いて歩いて「自分はやってない」と言い張ったりと、日常の生活で困ることが多くなったそうです。一方で、奥様も物忘れの症状が見られており、心配したご家族が昭さんご夫婦を連れて病院を受診、夫婦ともに「アルツハイマー型認知症」と診断されたそうです。

認知症の症状は進みつつあったものの、ご家族は「入院」までは、と考えて自宅介護を選択され、デイケアやショートステイなどの介護保険サービスを利用しながら、息子さん達が交代で食事を運んだり、見守りを行うなどで支えてきたそうです。

そんな折、昭さんが自宅で転倒、足を骨折してしまいました。救急搬送された病院ですぐに手術を受けて２週間ほどで退院をしたそうですが、やはり自宅介護は無理と判断し、その後は介護保険施設に入所をしたそうです。施設への入所後の昭さんの認知症の症状は転倒事故以後も段々強くなり、夕方になるとソワソワし（帰宅願望）、突然大声を出す、そしてスタッフや他の利用者さんたちに「暴言や暴力」があったため、令和２年の９月に当院へ入院されました。

入院当初の昭さんは「暴言、暴力」はさほどではなかったものの、落ち着きがなく、骨折直後なのに急に立ち上がったり移動しようとすることが多く、スタッフ達は常にヒヤヒヤしながら見守りをしていました。また夜も、昼夜逆転とまではいかないもののあまり寝ない事の方が多かったように思います。昭さんが落ち着かない時は、出来るだけスタッフが寄り添うようにしていましたが、いつの間にかディルームの同じテーブルに座る他の患者さんと仲良くなり、自分の居場所を見つけたかのように次第に安定をしてきて、夜もぐっすり眠るようになりました。

昭さんは本来とても穏やかな方です。院内では車椅子で過ごし、いつも笑顔を絶やさず、ご飯も「美味しい、美味しい」と言いながら召し上がります。そしてスタッフが介助をすると、にっこりしながら「ありがとう」と言ってくださいます。これからも昭さんの笑顔が絶えることなく、穏やかに過ごして頂けるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思っています。

１病棟　介護福祉士　大城　恵理

いきいき看護・介護

『フットケアについて』

1病棟　看護副主任　鈴木　理恵

『足』は全身の土台として「立つ」「歩く」「衝撃を吸収する」といった体のバランスを取るための重要な役割をしています。しかし、足の状態が悪くなってしまうと、立ち上がったり歩いたりするときに足が痛むようになり、痛みのせいでうまく歩くことが出来なかったり、バランスを崩して転んでしまったりします。いつまでも健康で過ごすためにも「フットケア」は欠かせません。

《フットケアのポイント》

足元のケア

・足に優しい靴を選ぼう

・靴の履き方に気をつけよう

・靴下を履こう

お手入れ

・足を清潔に保とう

・洗った後は保湿ケアをしよう

・爪は正しく切ろう

今日から実践、足元のケア！見て、触って、異常がないか確認しましょう！